



タブレット端末やスマートフォンにより情報共有や記録がリアルタイムに
画像提供:NDソフトウェア

多職種・多法人間連携 地域包括ケア対応の流れ

地域包括ケアにおける、多職種・多法人間連携が次期介護保険制度における重要テーマとなっているが、システ

ム面での地域包括ケア支援については、各社の進捗はさまざまというのが現状だ。まずは、同じ介護ソフトを使っている、同一法人内の連携から対応するといったシステムが多いようだ。

地域の多職種が連携するには、医師会や自治体を動かさなければならず、そもそも誰が音頭をとり、導入費用は誰が負担するのか、導入への道筋も一つの課題となっている。

複数の事業所や、法人間で利用者の情報が共有できれば、紙ベースでの伝言や口頭での申し送りでは不可能であった詳細かつ最新の情報が、多職種間で共有できる。スマートフォンで撮影した動画など、紙のやり取りでは成しえなかった情報も共有できることは、大きな魅力であり価値といえる。

こうした取組みについて、カナミツクネットワークの地域包括ケア情報連携基盤は、一つのモデル的存在といえる。東京大学高齢社会総合研究機構との共同研究で、千葉県柏市で行なわれた多職種連携モデル事業にも採用されるなど、その実績が評価され、多くの自治体や医師会などに採用されている。スタッフそれぞれのポータルとして機能し、ケアマネジャーや介護従事者、医療従事者、利用者本人、家族などと

での情報連携がスムーズに行なえる点は魅力だ。価格は、サービスごとの初期導入費用が5万〜15万円、月額利用料が数万円で、利用者数の制限はない。

(株)ワイズマンは、「ワイズマンシステムSP」をASPサービスとC/S型システムの両方で提供しており、全国に3万1000件以上の導入実績がある。介護システムとして本格的な機能とラインナップを備えるとともに、医療の電子カルテシステムとのシームレスな連携が可能であり、医療と介護の両面でトータルなネットワークを構築できる強みがある。ASPサービスの価格は、初期導入費用として設定料と操作説明料のみで、使用するサービスに応じた月額利用料となる。

(株)エス・エム・エスは、ASPの介護保険ソフト「カイボケビス」を、「カイボケ経営支援サービス」と改め価格も改定。請求業務の機能に加え、追加料金なしでデザイナーサービスや居宅介護支援事業所がPC・LPIを1台使えるサービスや、利用者獲得のための営業支援、職員採用支援、訪問介護の勤怠管理など、事業所の立上げから、運営全般のサポート機能を付帯サービスとして追加。訪問・通所介護事業所の場合、初期費用無料で、月額2万5000円の

みとわかりやすい。

事業運営の視点から介護経営サポートサービスを提供しているのはセントワークス(株)だ。セントワークスのグループ会社であり、セントワークスが全国400カ所以上の管理業務に使用して実績を上げていたシステムを、実績管理と売上・入金・債権管理のシステム「SageRemon」としてASPサービスで提供し、全国3000事業所に活用されている。セントワークスでは売掛金の回収率が99.9%になったという実績がある。経営分析機能も搭載でき、複数法人を擁するセントワークスグループの現場感が反映されたシステムとなる。

また同社では今年から、セントワークスで実際に使用している、業務書式やマニュアル、研修ツール、実地指導対応のマニュアルなどについても、情報提供を開始している。

機能を絞ったソフトで モジュールスタートも可能

各社のソフトが業務を全般的に網羅するなか、ユーザーとしては必要な機能だけに絞りたい、コストを抑えたいという選択もある。低価格を売りにした介護ソフトは数多くあり、価格は二極化している。低価格商品の登場に

より、介護事業に参入したばかりの小規模事業者にとっては、導入しやすいう環境がふえていくといえそうだ。

たとえば「ほのほのNEXT」のNDソフトウェアでは、請求業務に特化したASPサービス「ほのほのmini」について、1事業所番号当たり、居宅介護支援事業所は月額1400円(税別)、サービス提供事業所は月額2200円(税別)で、国保連への伝送、法改正対応、サポート費用が含まれる。将来的にはminiからNEXTへの移行も可能だ。

また、(株)ビーシステムが介護保険制度開始時から提供している介護保険業務管理ソフト「ファーストケア」シリーズは、請求、記録、本部向け機能など一通りの機能を備えているが、今年10月からは、パソコン一台のライセンス、マニュアルはダウンロード、サポートなしで、すべての機能を利用できるフリー(無料)版「ファーストケアHomey」の提供を開始した(対象サービスは居宅系限定)。

パソコンで使用する場合は通常の費用が発生する。

**タブレットやスマートフォン対応
電子ペンや音声認識も登場**

操作性も重要な観点だ。ASPサービスでは、操作画面はインターネットのブラウザソフトを使用するため、手の込んだつくり込みはしにくい、メニュー階層が深くなり過ぎないようにするなど、各社とも工夫がみられる。近年のインターネット環境の充実によって、アクセススピードが気にならない程度になっていることも、ASPサービスが広がっている一因でもある。

また、タブレット端末やスマートフォンの活用は、情報共有や記録がリアルタイムに行なえる利便性から、ASPサービスならば当然といえるほどに普及。C/S型でも、専用アプリを開発して対応する動きがある。

一方で、介護現場の全職員がタブレット端末を使いこなせるわけではない。定型フォームに手書きした情報をそのままデータ化する「デジタルペン」も、(株)内田洋行や日立システムズ、富士通など複数の企業がリリースされている。また、記録に音声認識機能を活用する試みなどもはじまっている。

第四回 介護甲子園

2014年11月9日(日)

12:00 開場 13:00 開演

会場: 日比谷公会堂



現在チケット完売間近につき、お早めの購入をおすすめいたします。

www.j-care.or.jp/ticket/

JCA 第四回 介護甲子園
主催: 社団法人日本介護協会

〒110-0014 東京都台東区北上野 2-6-14
TEL:050-5865-2163 (担当: 近藤) FAX:042-403-4783 info@j-care.or.jp
特別協賛: 株式会社バフファロー / オーダー技術株式会社

介護甲子園を応援しよう!

介護甲子園版 「おくすり日記」

介護甲子園版おくすり日記は、医療用医薬品のデータベースを持った服薬管理用 Web アプリです。おくすり日記は介護現場にとって大切な「おくすりの管理」に役立つアプリとして、日本介護協会がオスメする介護甲子園応援グッズ第一弾です。

売上の一部が介護甲子園の運営費にあてられます。

どなたでも介護甲子園を応援できます!

くすりを調べる

服薬管理

バイタル記録

通院記録

家族の切り替え

月額 108円(税込)

スマートフォンまたはタブレット端末より、下記URLにアクセスしお申し込みください。

<http://okusurinikki.jp/jca/>

※パソコンからは受け付けておりません。

